

第3学年 道徳学習指導案

日 時 令和3年11月5日（金）

場 所 3年 組教室

授業者

1 主題名 いのちを考える（1）

2 資料名 生まれてきてくれて、ありがとう -助産師からのメッセージ

3 主題構成表

■内容項目

D-（19）生命の尊さ

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

■価値の分析

- ・新たな生命の誕生は奇跡であり、その奇跡の連続で今の自分が存在する。しかし、その生命もいつかは終わりが来てしまう。そういった生命の奇跡、連続性、有限性を理解することで、より一層自他の生命を尊重することができる。
- ・中学生の時期、生徒は生命がかけがえのないものであることは理解しているが、感情的になってしまったり、自分の存在意義について思い悩んでしまったりするあまり、生命を軽視した言動をしてしまうこともある。
- ・生命誕生の奇跡、連続性、有限性を理解させることで、世の中に存在するすべての命はみな平等であり、かけがえのないものであることを改めて感じ、より一層自他の生命を尊重した生き方をしようとする態度を育てたい。

■内容項目から見た生徒の実態

- ・生命の大切さは理解しているが、自分が生きていることの奇跡的な巡り合わせや生命の連続性について考えることは少ない。
- ・感情的になってしまい、生命の軽重を自分勝手に付けてしまう発言も見られる。
- ・学級の仲間とは概ね仲良く過ごしているが、軽はずみな言動から相手を傷付けてしまう生徒もいる。また、その言動を許してしまう仲間の雰囲気もある。

■要因

- ・自分自身が健康であることや身近な人の死に触れる機会が少ないこともあり、自他の生命を大切にしたい生き方・言動とはどのような生き方・言動なのか、具体的な姿としてのイメージがもてないでいる。
- ・一小一中であるため、立場の強い生徒・発言力のある生徒の関係が固定化しがちである。そのため、嫌だと思っても、人間関係が崩れることを恐れ、我慢してしまうことがある。

■資料の分析

- ・本資料は助産師の立場から新しい生命誕生の喜びや感動、生命誕生に携わる重責への思いが綴られたものである。
- ・新たな生命が誕生するとき、生まれてくる赤ちゃんの性別や容姿などはとても小さなことにすぎず、誕生を無条件に願う気持ちに気付かせたい。
- ・生命誕生に携わる助産師の言葉から、生命の誕生に伴う喜びや感動、重責を理解させたい。このことから、生命を授かり、生まれてくることへの奇跡と、生命の連続性、有限性を理解させ、自らの生命の大切さを深く自覚するとともに、他の生命を尊重する態度を身に付けさせたい。

■ねらい

助産師や出産を経験した方が向き合っている「命」への思いを考えることを通して、生命誕生の奇跡、連続性、有限性を理解し、自他の生命を尊重して生きようとする態度を育てる。

■展開の構想

- ・自分が生まれたときのエピソードを発表したり、想起させたりすることで、価値の方向付けをする。
- ・助産師が向き合っている「もっと大きなもの」とは何かを考えることで、新たな命の誕生を無条件に願う気持ちに気付かせる。
- ・生命誕生に携わる喜びや重責を理解することで、生命誕生の奇跡や連続性、有限性を理解させる。
- ・出産経験者の話を聞くことで、親にとってわが子は何者にも代えがたい唯一無二の存在であることに気付かせ、同じ生命でも助産師とは違う捉え方をしていることを理解させる。また、この世に存在する全ての命が大切に守られ、多くの人に支えられて生まれ、育ってきていることを実感し、自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。

■基本発問（◎中心発問）

- 自分が生まれたときのエピソードを聞いたことはありますか。
- 助産師さんが向き合っている「もっと大きなもの」とは何だろう。
- ◎助産師さんは、いつもどんな気持ちで赤ちゃんを抱き上げるのだろう。
- お母さんは、自分の子を初めて抱いた時、どんな気持ちになっただろう。

4 道徳の時間(本時)と他の教育活動との関連

<場の内容・ねらい>

■学級活動
「人権集会に向けて」
・人権の五観点をもとにして成果と課題を明らかにするとともに、人権感覚をさらに高める取組を行うことで、より温かい仲間関係を築く。

■道徳の時間
「生まれてきてくれて、ありがとうー助産師からのメッセージ」
内容項目 D- (19)
・助産師が向き合っている「命」への思いを考えることを通して、生命誕生の奇跡、連続性、有限性を理解し、自他の生命を尊重して生きようとする態度を育てる。

■道徳の時間
「くちびるに歌をもて」
内容項目 D- (19)
・どんな困難な状況であっても、自己の生命を守り、大切に生きていこうとする態度を育てる。
「人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える」
内容項目 D- (19)
・尊厳死をめぐる裁判をもとに、生命の尊厳についてさまざまな立場から多面的・多角的に考え、生命倫理について関心を深めるとともに、自他のかけがえのない生命を尊重しようとする態度を育てる。

■学校行事
「人権集会」
・人権について仲間と話し合ったり、取り組んだりすることで考えを深め、日常生活において人権を大切にしたい言動をしようとする実践意欲を育てる。

■日常生活
〈生活の記録〉
・進路や生き方等に関する考えや悩み、相談に真摯に向き合い、丁寧にコメントすることで、生徒が悩みながらもよりよい自分に成長しようとして前向きにがんばれるようにする。

〈朝の会・帰りの会〉
・「先生の話」で、生命尊重に関わる時事問題等の話をしたり、生徒と話し合ったりすることを通して、かけがえのない生命を大切に生きていこうという意欲を高めるとともに、命あるものすべてが平等であり、すべての命がかけがえのないものであることの理解を深める。

〈教育相談〉
・生徒一人一人とじっくり話す時間を設け、よさを認め励ましたり、悩みに寄り添って一緒に考えたりすることを通して、自分の存在意義を実感したり、苦しいことから逃げずにがんばろうとする意欲を高めたりする。

■教科
〈保健体育〉
・「健康な生活と病気予防」では、かけがえのない健康がどのように成り立っているのか学習する。また、健康の増進や病気予防や治療をするための社会の仕組みも学習し、共に健康と命を守ろうとする知識と意欲を高める。

<生徒の意識>

・今までの自分は人権の五観点の「責任」を大切に生活できた。
・人権集会に向けて、仲間を大切にしたい。「行為」ができるようになりたい。

・新しい生命の誕生は奇跡であり、一つの命が生まれるまでに多くの命がつながっている。そして、その命は永遠ではない。だからこそ、自分の命も他人の命も大切にしなければいけない。

・どんなに苦しくても、生きることを自分から諦めてはいけけない。
・自分の命も周りの命もかけがえのないものだから大切にしなければいけない。
・「生命倫理」にまで踏み込んで考えたことはあまりない。

・今までも人権を大切にしてきたつもりだったがけれど、さらに大切にしたい。
・かけがえのない仲間との温かい関係を大切に、誰に対しても親切に接していきたい。

<指導・援助>

・今までの学級での生活を人権の五観点をもとに振り返り、よさ・がんばりは認める。
・課題はどのように克服するとよいか考えさせ、充実した取組ができるようにする。

・生命誕生には、多くの人々が支え合っていることに気付かせる。
・生命誕生に伴う喜びや感動、重責に気付かせる。
・すべての命はみな平等で、尊重されなければならないことに気付かせる。

・生きる希望や勇気を持ち、自分を信じて生き抜く素晴らしさに気付かせる。
・命についての多様な考えを交流することにより、『人間の命』を大切にすることへの本質に迫り、生命尊重への学びをより深めたい。

・人権について改めて考え、取り組むことを通して、かけがえのない仲間との温かい関係を創っていかうとする実践意欲を育てる。

5 本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>1. 価値に関わる自分の感じ方・考え方をもつ。</p> <p>○自分が生まれたときのエピソードを聞いたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定よりも早く（遅く）生まれた。 ・何時間もかかって大変だった。 ・病院ではなく○○で生まれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭に事情がある生徒には、無理に発表させないよう十分配慮する。 ・発表しにくい場合は、教師の体験を話す。
展開前段	<p>2. 資料「生まれてきてくれて、ありがとうー助産師からのメッセージ」を読み、話し合う。</p> <p>○助産師さんが向き合っている「もっと大きなもの」とは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とにかく無事に生まれてほしい。 ・元気に生まれてきてさえくれればいい。 ・男の子だろうが女の子だろうが大切に育てる。 <p>◎助産師さんは、いつもどんな気持ちで赤ちゃんを抱き上げるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかった。安心。 ・よくがんばったね。感動。 ・まだ気は抜けない。絶対を守る。失敗できない。 ・お母さんが守ってきた命。大切にしなければ。 ・赤ちゃんの命には、両親の命があり、祖父母の命があり、ずっとつながってきている。 <p>○お母さんは、自分の子を初めて抱いた時、どんな気持ちになっただろう。（ゲストティーチャーの話聞く。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいい。愛しい。 ・大切にしよう。守っていこう。 ・両親に感謝したい。 ・大切に守ってもらった。 ・苦労して産んでもらった。 ・いただいた命を大切に生きていきたい。 ・自分だけではなく、周りの人の命も大切にしたい。 ・人と接する時に、その人の後ろにはその人を大切に思う人がいることを忘れずに接していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の範読を聞きながら、すごいなと思ったことやどうしてだろうと思ったところに線を引かせる。 ・生まれてくる赤ちゃんの性別や容姿に固執していない姿に着目させ、新たな生命の誕生を無条件に願う気持ちに気付かせる。 ・自分の考えを書いて提出する。提出した生徒から仲間のカードを見て、仲間の考えとの共通点や相違点を把握する。（タブレット使用） ・提出したカードをもとに全体で交流する。 ・助産師の言葉から生命誕生に伴う喜びや感動、重責に気付かせ、一つの命の誕生には多くの支えがあって成り立っていることを理解させる。 ・助産師の言葉から、生命誕生の奇跡、生命の連続性、有限性に気付かせる。 ・妊娠が分かった時やお腹の中にいる時、出産した時の気持ちについて話してもらう。 ・実際に出産を経験した方の話から、出産時の気持ちを考えさせることで、親にとってわが子は何者にも代えがたい唯一無二の存在であることに気付かせ、同じ生命でも助産師とは違う捉え方をしていることを理解させる。 ・自分だけでなく、この世に存在する全ての命がこのようにして生まれ、育ってきたことを実感させる。
展開後段	<p>3. 本時の学習を振り返る。</p> <p>○みんなこのようにして生まれてきた。あなたは、これからどのように生きていきたいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、自分が生きていることが当たり前ではないことを改めて感じた。せっかくもらった命を大切に精一杯生きていきたい。 ・自分には両親がいて、祖父母がいて、曾祖父母がいて、ずっとつながってきた。そのどれか一つでも欠けてしまったら今の自分ではなかったと思うと、今生きていることはすごいことだと思った。今まで支えてくれた人に感謝して生きていきたい。 ・自分の命が大切であるように、この世の中に存在するすべての命が同じように大切なものであることが分かった。自分にとってあまり関係のない人でも、誰かにとって特別な存在で、自分と同じように大切にされてきた命である。自分の身近な命はもちろん、遠い存在の命まで大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時考えたことをもとにして、生命の「奇跡」「連続性」「有限性」の視点から自分の生き方を考え、記述する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価の視点】 助産師や出産を経験した方の立場に立って、生命誕生の奇跡や連続性、有限性について理解し、自他の生命を尊重した生き方について考えている。</p> </div>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が体験した出来事の説話をして、人間の生死の重さを実感させ、軽はずみな言動をせず、自他の生命を尊重して生きようとする意欲を高める。